

### 3 議 案

#### 第 1 号議案 議事録署名人選任の件

定款第 30 条第 2 項にもとづき、次の二名を選任する。

1

2

#### 第 2 号議案 令和元年度事業実績の件

##### 令和元年度（2019 年度）事業報告

#### 1. 全体評価まとめ

令和元年度（2019 年度）は地球温暖化の脅威やグローバル化に伴う様々な影響を実感させられ、認定特定非営利活動法人えどがわエコセンター（以下「エコセンター」という。）の事業執行にも大きな影響があった 1 年であった。事業数は 216 件と昨年度比マイナス 22 件にとどまったが、地球環境への負荷を減らしながら、活力ある地域社会を創造するため、区民、事業者、区が連携・協働して取り組むことができたと考えている。

また、プラスチックごみ問題は世界規模での対策が次々に打ち出された年でもあった。6 月に開催された G20 サミットでは、2050 年までに海に流出するプラごみをゼロにする目標が合意され、国のプラスチック資源循環型戦略や都の廃棄物審議会においても、廃プラの大幅な削減が謳われレジ袋の有料化についても提言され、令和 2 年 7 月より有料化されることとなった。

エコセンターの取り組みとしては、脱プラごみを掲げた大きなイベントとして荒川プラごみクリーン作戦や講演会を予定していたが、悪天候等により中止せざるを得なかった。

一方では、会員や多くの関係者の皆さまの協力を得ながら、ラムサール条約に伴うワイズユースの新たなあり方を提案することができた。また、エコセンターから発信した SDGs が、江戸川区の新年度施策で直面する区政課題の解決のための視点として活かされるなど大きな前進をみせた年度でもあった。

エコセンターとして初めて外国からの視察が 2 件あり、エコセンターの取り組みの PR とともに温暖化による海面上昇の被害や海ごみ対策などの生の声を聞くことができ、大変有意義であった。さらに、知り得た実態をその後のエコセンターの取り組みに活かすことができた。

## 2. 主要事業別評価

- (1) 環境教育では、ESD（持続可能な開発のための教育）が注目されている中、すくすくスクールでの活動が高まりをみせており、令和元年度は放課後環境教育を26校において実施し、831人の参加実績となった。また、おきがる環境講座では、ESDの第一人者である手島利夫氏を招きESD及び世界的に注目されているSDGsについて講演会を行った。講演内容がわかりやすく、多くの区民や区議、区関係者の参加があり、持続可能な社会へ関心が非常に高まっていることがうかがえた。
- (2) おきがる環境講座は、参加人数が376人と前年度より減少傾向にあったが、多くの新規プログラムを取り入れ、好評を得ることができた。具体的には、南極・北極科学館の見学を取り入れ極地における温暖化の実態やエコライフを学び、日々の生活を考え直すプログラムを実施した。また、プラスチックごみのリサイクル施設見学会を実施し、日常生活がいかに環境問題に直結しているかを実際に目で見て感じてもらうことができた。さらに、ラムサール条約登録地である葛西海浜公園において、船上から水鳥や三枚洲の観察、船内での概要解説を行う船上観察会を実施し、ラムサール条約登録の経緯や意義を伝えることができた。
- (3) みどりのカーテン普及啓発事業は、昨年度に引き続きエコカンパニーえどがわや学校等団体が参加しやすい夜間の時間帯を設けて実施したが、前年度の参加件数を下回る417件の参加となった。しかし、平成22年から実施し9年目となり、リピーター率も70%と多いことから、みどりのカーテンを、一定以上普及啓発させることができたとも考えられる。
- (4) エコカンパニーえどがわは、新規登録が32件と前年度を超える申請があり、徐々にではあるが登録件数が増加し、累計登録件数は355件となった。平成30年度、登録事業所の整理等を行い大幅な減少があったが、令和元年度は退会事業所も13件にとどまり、制度の趣旨に賛同する事業所を増加させることができた。
- (5) 令和元年度は、ミクロネシアや北マケドニア等、海外からの視察2件の受け入れを行った。これらの視察により、地球規模で起きている温暖化の脅威やごみ問題等の生の声を聞くことができ、また、その声を様々な機会を活かすことができた。これらの経験は、エコセンター事業を海外に発信し、グローバルな活動に繋がる貴重な機会となった。
- (6) 台風等の悪天候や新型コロナウイルス感染症の拡大の影響等により、多くの事業が中止となった。プラスチックごみの海洋汚染問題をテーマとした講演会や出展予定であった江戸川区民まつりは、台風19号の影響により中止となり、協力事業のKODOMOラムサール in 葛西海浜公園や荒川プラごみクリーン作戦等の事業が、感染症拡大防止のため中止になった。特に脱プラを目指す大きな2つの事業が中止になったことは、とても残念であった。
- (7) エコセンターの体制強化にあたっては、理事の協力を得ながら委員会の再構築に向け、見直し等に着手した。現状や課題について再確認を行うとともに、今後の方向性等について意見交換を行った結果、当面の間、大きな変革は行わず、事務局と連携しながら継続していくこととなった。また、事業の執行に対しても予算の効率、公平、適正な視点に立って見直しを進めた。さらに、もりあげ隊の活性化のため、イベント等の参加だけでなく交流会も実施し、次年度へ繋がる取り組みを行うことができた。

### 3. 次年度へ向けた重点課題・対策

令和元年度から引き続いた新型コロナウイルスによる感染拡大により環境フェアが中止となるなど、大きな影響が及んでいる。令和2年11月にイギリス・グラスゴーで開催される予定であったCOP26も延期となったが、各国は新たに温室効果ガスの削減目標（NDC）を示すことになっていた。パリ協定の1.5℃目標の達成のためには、削減目標の野心的な引上げが必須の状況にある中、日本は今回、残念ながら削減目標を据え置くこととなった。今後、見直しされる地球温暖化対策計画やエネルギー基本計画での温室効果ガスの「意欲的で野心的な削減目標」が期待される。一方、アメリカのパリ協定離脱やイギリスのEU離脱など、国際協調路線の綻びも見られる国際情勢の中で温暖化対策、プラごみ対策など、今こそ各国が自分の利益だけのために動くのではなく、地球全体のことを第一に考えて行動すべき時であると考え。今後もエコセンターは、Think Globally Act Locally を行動目標に掲げ、新年度の施策を力強く進めていく。

令和2年度事業に向けたエコセンターの重点ポイントは、脱プラごみ、脱食品ロス、脱炭素、ワイズユースの拡充とともに若者世代を取り込んだ環境対策である。引き続きESDの普及啓発に努めるとともに、各事業をSDGsの目標と紐づけ、持続可能な社会の構築に取り組む。東京2020大会に向けた多言語化や外国からの視察の受け入れなど、グローバルな展開も図っていく。

- (1) 深刻化する海洋プラスチックごみ対策の一環として、実態を知る「清掃活動」と「講座」をセットにした講演会を実施していく。また、レジ袋有料化に伴い、マイバッグを中心にマイボトルやマイ箸、マイストロー等の普及活動を推進していく。さらに、商店街との連携によりプラごみ対策の事業も拡充していく。
- (2) 食品ロス削減に向け、令和2年度よりエコセンターでは、未利用食品の常設回収を開始し、フードドライブ事業を拡充していく。また、常設回収のPRを重点的に行っていく、回収拠点としての確立を図っていく。もりあげ隊の活動範囲を広げることも踏まえ、フードドライブでの仕分け作業等を循環型社会づくり委員会やもりあげ隊の協力も得ながら実施していく。
- (3) みどりのカーテンモニターの件数が減少傾向にあるため、講習会の内容や実施会場の見直し等を検討していく。例年報告書の提出数が伸び悩んでおり、令和元年度はQRコードによる報告も取り入れたが、全体の半分ほどにとどまっている。今後は報告書のペーパーレス化を行い、インターネット上で報告ができるシステムの構築をさらに検討していく。
- (4) 令和2年度より、おきがる環境講座を「エコアクション講座」に改名し、一層の内容充実を図っていく。SDGs・ESDの視点を踏まえ地球温暖化防止、自然環境保全、資源循環を柱とし、座学だけでなく実際に現場を訪れる見学会も多く取り入れ、区民に環境をより身近に考えてもらい、普段の生活の中で環境活動を実践できる人材の育成に取り組んでいく。
- (5) エコセンターのPR強化のため、令和2年度は江戸川総合人生大学祭やボランティアフェスティバルに出展し、卒業生やボランティア団体がエコセンターに入会し会員として活動してもらえるよう、受け入れ体制の拡大を図っていく。
- (6) 地球環境問題のグローバル化に対応していくため、エコセンターホームページの多言語化や外国人視察受け入れの体制強化を行っていく。令和元年度に2件の外国人視察受け入れを行ったことを踏まえ、翻訳機の活用やリーフレット等の外国語版の作成も検討していく。

#### 4. 事業評価

| 活動項目 |                     | 平成30年度  | 令和元年度   | 増減     |
|------|---------------------|---------|---------|--------|
| 事業   | 事業数(件)              | 238     | 216     | △22    |
|      | 参加者数(人)             | 21,013  | 18,404  | △2,609 |
| 会員等  | 会員数(個人・団体)          | 548     | 563     | 15     |
|      | もったいない運動参加者数(※累計人数) | 134,962 | 142,596 | 7,634  |
| 財務   | 区補助金実績(千円)          | 47,291  | 45,383  | △1,908 |
|      | 民間等助成金実績(千円)        | 1,623   | 1,408   | △215   |

#### 5. 科目別事業評価

| 活動項目                     | 事業数(件) | 参加者数(人) |
|--------------------------|--------|---------|
| (1) 環境教育・環境学習の推進事業       | 44     | 1,900   |
| (2) 人材育成事業               | 13     | 543     |
| (3) 区民・事業者・行政との交流・連携推進事業 | 128    | 15,355  |
| (4) 情報の提供及び支援事業          | 4      | 55      |
| (5) 自然環境の保全と活用           | 27     | 551     |
| 計                        | 216    | 18,404  |

##### (1) 環境教育・環境学習の推進事業

###### ○結果・評価

- ①グリーンプラン推進校では、限られた予算の中で環境活動を実施する学校にとって、エコセンターの支援が非常に有効で、幅広く活用できている等のアンケートの回答があり、15年目となる本制度の果たす役割が学校に広く浸透してきている。
- ②令和元年度のグリーンプラン推進校では、10校(中学校4校、小学校6校)が参加し、7校の学校において出前授業を行った。
- ③出前授業の依頼は18件あり、参加生徒数は1,069人とどまり前年度を大きく下回った。実施日の日程や講師派遣の調整が難しく、出前授業を受けられない場合が生じ、依頼件数及び参加生徒数が減少する結果となった。
- ④放課後環境教育は、会員団体の積極的な協力により、前年度に比べ回数や人数が増加し、令和元年度は26回の依頼があり、831人の参加実績となった。

###### ○次年度への課題・対策

- ①グリーンプラン推進校では、出前授業を実施する際に日程調整がうまく進まず、実施できなかった学校があったことから、日程調整を円滑に行う管理体制の強化を検討していく。
- ②グリーンプラン推進校の活動状況把握のため、各学校の活動日の見学回数を増やし活動の様子を事務局でも記録していく。
- ③令和元年度から新しい出前授業のプログラムメニューとして、「南極OB会」の講師による、地球温暖化に関するプログラムを実施しており、今後より一層のPRを進め、幅広い分野の出前授業を提供していく。

- ④すくすくスクール放課後環境教育では、運営を1団体が担っていることが課題となっており、他団体からの協力や新たな講師・スタッフの開拓を行い、後継者の育成に努めていく。

### (1-1) 学校等環境学習支援

| 項 目                   | 計 画          | 実 績                                  |
|-----------------------|--------------|--------------------------------------|
| 環境学習支援（グリーンプラン推進校）    | 10 校         | 10 校（累計 143 校）<br>（説明会・報告会 1 回/27 人） |
| 小中学校出前授業（総合学習等）       | 40 回/3,000 人 | 13 校 18 回/1,069 人                    |
| 子ども放課後環境教育（すくすくスクール等） | 25 回/800 人   | 26 回 831 人                           |

## (2) 人材育成事業

### ○結果・評価

- ①おきがる環境講座では、幅広い世代に参加してもらえるようオープニング講演会にルー大柴氏を招き、楽しく環境活動を考える機会をつくることができた。
- ②第2回おきがる環境講座では、南極・北極科学館を見学地とし、親子を対象に極地の環境や生活について学び、区民の生活に直結するエネルギーやごみ等の環境問題について考え直すきっかけづくりとなる講座にすることができた。また、実際に南極観測に携わった南極OB会の方々から解説を受けることができ、夏休みの自由研究に活用ができる魅力的なプログラムとなった。
- ③第7回おきがる環境講座は、江戸川区内にあるリサイクル処理施設と清掃工場の見学会を行った。参加者には日常的に出しているプラスチックごみが、どのように処理されているのかを実際に見学してもらい、ごみの捨て方について改めて考えてもらう機会をつくることができ、好評を得ることができた。
- ④第8回おきがる環境講座では、ESDの第一人者である手島先生を講師に迎えたことで、区内外からの多くの参加者を募ることができた。今やSDGsについて、目にしない日がないほど広く関心を持たれており、非常にタイムリーな内容の講座を提供することができた。
- ⑤第9回おきがる環境講座は、平成30年10月にラムサール条約湿地登録された葛西海浜公園において、条約の趣旨でもある「ワイズユース」を実践するため、屋形船を利用した船上観察会を実施し、参加者には水鳥の観察や三枚洲の概要説明等により、葛西海浜公園のラムサール条約登録について知識を深めてもらうことができた。

### ○次年度への課題・対策

- ①令和2年度より、おきがる環境講座を「エコアクション講座」に改名するとともに、江戸川区の受託事業から、エコセンターの独自事業として実施していくこととなった。受託事業ではなくなるが、江戸川区の施策を反映させながら一層のプログラムの充実に努めていく。
- ②リサイクル施設の受け入れ体制により、一度に多くの参加者を受け入れることが困難な場合があり、入れ替え制等の見学方法の検討や工夫を行っていく。リサイクル施設の見学として中央防波堤最終処分場の見学も加えていけるよう検討していく。
- ③SDGs・ESDをテーマにした手島先生の講演では、多くの参加者があったものの、学校関係者の参加者が少なかったため、次回は開催時期や曜日、時間の見直しを行い、学校関係者が多く参加できるよう検討していく。

- ④おきがる環境講座は、より多くの区民が環境について考え、日常生活を見直し行動を起こすきっかけづくりの場となるよう、今後もタイムリーな話題と正確な情報提供に努めていく。

(2-1) 環境学習リーダー養成講座

| 項 目            | 計 画      | 実 績     |
|----------------|----------|---------|
| おきがる環境講座（受託事業） | 10回/450人 | 8回/376人 |

(2-2) 講演会

| 項 目   | 計 画    | 実 績     |
|-------|--------|---------|
| 環境講演会 | 1回/60人 | 1回/194人 |

(2-3) 地域活動支援

| 項 目            | 計 画    | 実 績     |
|----------------|--------|---------|
| もったいない講座（出張講座） | 2回/30人 | 5回/167人 |

(3) 区民・事業者・行政の交流・連携の推進事業

○結果・評価

- ①みどりのカーテンモニター講習会は、昨年に引き続きエコカンパニーエドがわ等団体向けに講習会を夜間にも実施したが、参加者数が伸び悩み昨年度比62件減の417件となった。
- ②平井親和会商店街のエコ啓発パレード参加やリバーウエスト千本桜商店会のエコ・サマーセールへの打ち水セット貸し出し等、商店街事業と連携することができた。
- ③マイクロプラスチック海洋汚染問題に関するシンポジウムを開催予定であったが、台風19号の影響により中止となり、荒川プラごみクリーン作戦も新規事業として実施予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大のため、中止にせざるを得なかった。
- ④フードドライブについて、令和元年度は区内10か所の地域まつりに加え、おきがる環境講座でも回収を行った。結果として未利用食品の回収は約180kgにとどまったが、回収場所の拡大に繋げることができた。
- ⑤エコカンパニーエドがわの登録事業所について、レポート提出のフォロー等を実施したことにより、退会事業所数も13件と少なく、徐々にではあるが登録件数を増やしている。

○次年度への課題・対策

- ①みどりのカーテンモニター講習会について、講習会の進め方や開催会場の見直し等を検討していく。また、リピーター率が高いことを踏まえ、新規の参加者を増やす工夫も検討していく。
- ②もりあげ隊の活動を地域イベントだけでなく、フードドライブ事業やエコアクション講座、事務局主体事業等へ積極的に拡大していく。併せてもりあげ隊専用ユニホームの作成等も検討し、「もりあげ隊として活動したい!!」と思ってもらえる工夫をしていく。
- ③令和元年度に中止になったマイクロプラスチック海洋汚染問題の講演会や荒川プラごみクリーン作戦の実施を改めて計画する。また著名人の講演会と西なぎさの清掃活動をセットにした事業も展開し、プラスチック海洋汚染問題について、より区民に関心を持ってもらえるよう努めていく。

- ④フードドライブ事業について、令和2年度からは事務局にて常設回収を行っていく。利用者にとっての回収の機会を拡大することで、多くの未利用食品回収に繋げていく。また、回収した未利用食品の選別作業等では、循環型社会づくり委員会やもりあげ隊へ協力を依頼していく。
- ⑤エコカンパニーえどがわについて、現在 ACCESS でデータ管理を行っているが、レポート提出の案内や有益な情報発信の他、エコセンターのイベント情報等、タイムリーに様々な情報提供ができるよう、一括でメール配信ができるシステム等の構築を検討していく。

### (3-1) もったいない運動えどがわの推進

| 項 目               | 計 画          | 実 績          |
|-------------------|--------------|--------------|
| もったいない運動登録者の拡大    | 149,000 人    | 142,596 人    |
| 環境フェア             | 5,000 人      | 5,000 人      |
| 地域イベントへの参加        | 16 回/8,350 人 | 13 回/6,739 人 |
| もりあげ隊（ボランティア参加者数） | 実施           | 実施           |

### (3-2) 省エネ・新エネルギーの推進

| 項 目                 | 計 画        | 実 績  |
|---------------------|------------|--|
| 家庭の省エネ診断・説明会        | 4 回/20 人   | 説明会 4 回/13 人                                 |
| 環境に配慮したエコライフ講座、講習会等 | 15 回/150 人 | 6 回/26 人                                     |
| みどりのカーテンの普及啓発       | 19 回/500 人 | 講習会等 16 回/351 人<br>交流会 1 回/9 人<br>環境フェア 66 人 |
| キャンドルナイト（スタンド作り）    | 実施         | 4 回/92 人                                     |

### (3-3) 3R（リデュース・リユース・リサイクル）の推進

| 項 目               | 計 画        | 実 績        |
|-------------------|------------|------------|
| マイバッグキャンペーン       | 春・秋 2 期    | 春・秋 2 期    |
| フードドライブ（未利用食品の回収） | 10 回/80 件  | 11 回/62 件  |
| 3Rに関する講座・講習会等     | 70 回/900 人 | 63 回/945 人 |
| エコセンターおもちゃの病院     | 12 回/400 人 | 10 回/365 人 |

### (3-4) 事業者の取り組み推進・支援

| 項 目                   | 計 画   | 実 績                     |
|-----------------------|-------|-------------------------|
| エコカンパニーえどがわ登録事業者の拡大   | 350 件 | 累計 355 件<br>(登録件数 32 件) |
| エコカンパニーえどがわ普及啓発講座（再掲） | 60 人  | 194 人                   |
| ece 登録事業者への省エネルギー相談   | 実施    | 実施                      |

### (3-5) 商店（街・会）やスーパーのエコ活動支援

| 項 目           | 計 画     | 実 績       |
|---------------|---------|-----------|
| 商店街主催イベントへの支援 | 1回/100人 | 4回/1,500人 |

### (3-6) イベント等への参加

| 項 目                       | 計 画     | 実 績     |
|---------------------------|---------|---------|
| 産業ときめきフェア                 | 200人    | 2日/200人 |
| 大型商業施設タイアップ事業<br>(イオン葛西店) | 2回/120人 | 1回/38人  |

### (3-7) チャレンジ・ザ・ドリーム（中学生職場体験）

| 項 目                       | 計 画 | 実 績    |
|---------------------------|-----|--------|
| チャレンジ・ザ・ドリーム<br>(中学生職場体験) | 実施  | 3校/11人 |

## (4) 情報の提供及び支援事業

### ○結果・評価

- ①海外からの視察を2件（ミクロネシア、北マケドニア）受け入れ、地球温暖化の脅威やごみ問題等について生の声を聞くことができ、様々な機会において情報を活かすことができた。
- ②江戸川総合人生大学や町会、学校、団体等へ訪問し、エコセンターのPRや世界的な環境の動向等をわかりやすく解説するミニ出前講座を実施し、その後の事業展開に繋げることができた。
- ③広報えどがわ6/20号では、エコセンターによる海外からの視察団受け入れが1面に取り上げられた。その他の紙面にもエコセンターの事業を紹介する特集が生まれ、広く区民にエコセンター事業をPRすることができた。
- ④エコちゃんねるは、年2回発行した。エコちゃんねる51号では今までに取り上げることのなかった「エシカル消費」を紹介し、環境問題は地球規模で考える必要があることを周知することができた。

### ○次年度への課題・対策

- ①ホームページにおいて、外国の方にも閲覧してもらえるよう、多言語化対応を進めていく。また、事業の情報及びブログ等のリアルタイムの更新に努め、さらに動きのあるホームページ運営に努めていく。
- ②江戸川総合人生大学祭やボランティアフェスティバル等のイベントに出展し、エコセンターで活動してもらう会員獲得の場を拡大させていく。
- ③令和3年度実施予定の東京2020大会を見据え、海外からの来訪者へエコセンターをPRするため、外国語版のエコセンターパンフレットの作成を検討していく。
- ④エコセンターのキャラクターを使用したグッズ等の作成を検討し、若い世代を中心にエコセンター事業を知ってもらえるようPR方法を工夫していく。

#### (4-1) 情報の発信と提供

| 項 目                           | 計 画 | 実 績             |
|-------------------------------|-----|-----------------|
| 情報紙「エコちゃんねる」の発行               | 4回  | 50, 51号 各2,000部 |
| ホームページの運営管理                   | 実施  | 実施              |
| リーフレットの作成<br>(葛西海浜公園に行ってみよう!) | 実施  | 10,000部         |
| 多目的ルームの活用                     | 実施  | 実施              |

#### (4-2) 他団体との連携・活動支援

| 項 目                 | 計 画 | 実 績 |
|---------------------|-----|-----|
| 江戸川総合人生大学への講師派遣     | 実施  | 実施  |
| 東京湾再生官民連携フォーラム等との連携 | 実施  | 実施  |

#### (4-3) 相談業務事業

| 項 目               | 計 画 | 実 績 |
|-------------------|-----|-----|
| 会員等からの団体運営や事業等の相談 | 実施  | 実施  |

#### (4-4) 会員の拡大

| 項 目             | 計 画 | 実 績          |
|-----------------|-----|--------------|
| 会員向けの講演会・交流会の実施 | 実施  | バス見学会 1回/27人 |
| あらゆる機会を捉えたPR    | 実施  | 実施           |

### (5) 自然環境の保全と活用

#### ○結果・評価

- ①水辺環境調査は、前年度同様に天候等の影響により調査日に調査不十分であった区間を、事後調査することで補い、全ての区間の調査を行うことができた。
- ②平成30年10月にラムサール条約湿地に登録された葛西海浜公園において船上観察会を実施し、屋形船のデッキから水鳥の観察や船内での解説、江戸前料理の試食によって、ワイズユースな取り組みを行うことができた。
- ③ラムサール条約登録湿地である葛西海浜公園を舞台とした、「KODOMO ラムサール in 葛西海浜公園」が東京都主催で企画されており、エコセンターも葛西海浜公園の今と昔を紹介する場面で協力予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大の影響でプログラムが延期となった。
- ④ラムサール条約湿地登録された葛西海浜公園について区民に知ってもらい、貴重な自然を将来に引き継いでもらうため、特に子どもが興味を抱くよう工夫しリーフレットを作成した。
- ⑤東なぎさクリーン作戦では、法政大学の学生やKODOMO ラムサール参加予定の子ども達に参加してもらったことにより、若い世代に江戸川区には豊かな自然環境が存在することを知ってもらうことができた。

## ○次年度への課題・対策

- ①区の委託事業として実施していた水辺環境調査は、例年、課題となっていた後継者の育成や調査スタッフの発掘が極めて困難であることから、令和2年度より区に戻すこととする。
- ②ラムサール条約湿地登録された葛西海浜公園や臨海公園を会場に、その魅力や素晴らしさをゲーム感覚で見つけてもらう親子対象の新規事業を計画していく。また、事業運営について、学生等の若い世代に協力依頼することを検討する。
- ③令和元年度実施予定であった「荒川プラごみクリーン作戦」を令和2年度では実施できるよう調整していく。エコカンパニー等企業への重点的な周知を行い、CSR活動の一環として多くの企業に参加してもらえよう努めていく。
- ④東京湾再生官民連携フォーラムとの連携により、東京湾の環境再生に向けた活動を上げるとともに、プロジェクト等にも参画し、葛西三枚洲エリアでの活動をさらに充実させていく。

### (5-1) 水辺環境調査

| 項 目                              | 計 画  | 実 績  |
|----------------------------------|--|--|
| 新中川、江戸川・旧江戸川、荒川、葛西沖の水辺環境調査（受託事業） | 植物 3 回/鳥類 3 回/<br>魚類・底生動物 1 回/<br>船上調査（植物・鳥類・<br>魚類・底生動物）1 回 | 植物 3 回/鳥類 3 回/<br>魚類・底生動物 1 回/<br>船上調査（植物・鳥類・<br>魚類・底生動物）1 回 |

### (5-2) 自然復元・再生事業

| 項 目                         | 計 画       | 実 績       |
|-----------------------------|-----------|-----------|
| 河川や海岸のクリーン作戦を通じた自然環境の復元     | 2 回/150 人 | 2 回/123 人 |
| 絶滅種や生物多様性に関する啓発（ムジナモ・ビオトープ） | 4 回/60 人  | 4 回/78 人  |

### (5-3) 自然体験・自然観察会

| 項 目            | 計 画        | 実 績        |
|----------------|------------|------------|
| 自然体験や自然観察会等の実施 | 15 回/400 人 | 12 回/219 人 |
| 一之江境川親水公園自然観察会 | 130 人      | 89 人       |

### (5-4) ラムサール条約の登録・生物多様性の保全

| 項 目                         | 計 画  | 実 績       |
|-----------------------------|------|-----------|
| 葛西三枚洲地域のラムサール条約登録           | 実施   | 実施        |
| 関係機関・関係団体・地域との連携            | 実施   | 実施        |
| チャレンジデーでの自然観察会              | 30 人 | 台風接近のため中止 |
| ラムサール条約登録地を船から見学する船上観察会（再掲） | 実施   | 30 人      |